

ミニシンポのお知らせ

題名：文化資源活用塾

1 基調講演：郷土の伝承遺産を観光・教育・地域活性化に活用する 「遺跡エンジニアリング」について

講師：上智大学アジア文化研究所 客員研究員 遠藤宣雄氏

1938 生まれ

1999年6月～2002年5月

国際ボランティア・カルチャースペシャリストとしてカンボジア王国に滞在

2 ディスカッション

シンポ講師：

上智大学アジア文化研究所 遠藤宣雄先生
久留米工業大学 大森洋子教授
他1名（交渉中）

3 日時：平成19年6月26日（火）18：30～20：30（予定）

4 会場：福岡市職員研修センター 403研修室
福岡市中央区天神一丁目6-8 天神ツインビル4階 福岡市役所西側

5 定員：60名

6 参加費：無料（事前申込・先着順）

7 主催：財団法人九州地域産業活性化センター
博多津にぎわい復興計画研究会

申込・問い合わせ先：事務局：福岡市教育委員会文化財管理課 井澤

TEL. 092 - 711 - 4784（内線3831）

FAX. 092 - 733 - 5537

（財）九州地域産業活性化センター 原田泰宏

TEL. 092 - 713 - 6735

FAX. 092 - 713 - 4292

郷土の伝承遺産を、観光に・地域活性化に活用する方法論：

「遺跡エンジニアリング」とは

『歴史的文化的資源を新しいエンジニアリングの考え方で社会文化発展に活用する方法です。地域の文化遺産に意味や価値を見だし、それを新たな文化資源とみなして、市民・行政・大学等教育研究機関・観光関連会社等関係者が一体となって活動し、学術振興、研究・保存・伝承、学校教育・生涯学習、観光、地域活性化等に活用する手法』です。

遺跡エンジニアの経緯

これは元エンジニアの会社員であった遠藤宣雄氏（現上智大学アジア文化研究所客員研究員）が、タイ（クメール遺跡）、カンボジア（アンコールワット遺跡：世界遺産、トンレ・サープ自然文化遺産）、インド（チラクデリー遺跡）の保存・活用に従事された経験を基に、遺跡がない地域にも当てはまるように、「地域資源」（自然資源＋人間資源＋文化資源）を地域に活用する方法論としてまとめられたものです。住民が主体となり地域発展に使える方法です。

「遺跡エンジニアリング」の「遺跡」とは、祖先の営みの跡という意味の「遺跡」の他に、音楽・舞踏、信仰・思想、民話・儀式、人々の生活様式などの有形無形の文化遺産すべてを意味する言葉として使用。また、「エンジニアリング」とは、工学とか技術という意味ではなく、古代ギリシャ時代の語源に遡って「物事を巧みに処理すること」の意味。したがって、「遺跡エンジニアリング」は遺跡を社会発展のために巧みに使用する方法ということになる。

住民にとって生活の場が魅力ある空間になるためには、住民がその気になって地域資源を基に孫の世代により良い地域社会を残すよう努力する必要がある。

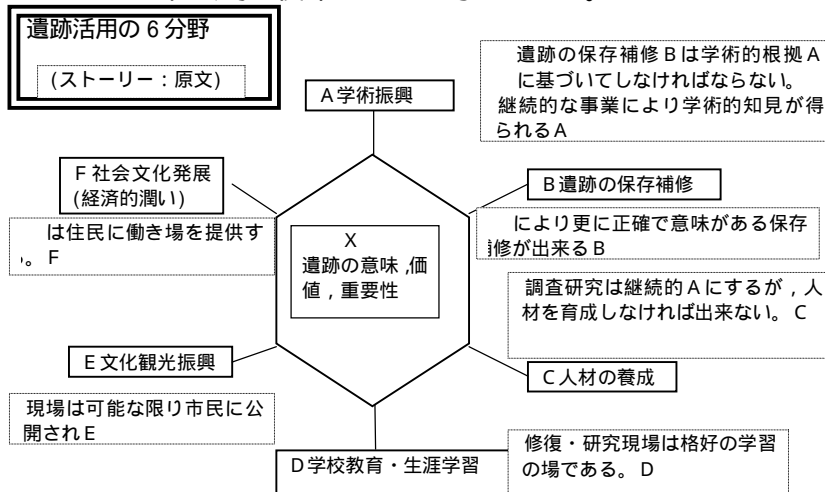
「遺跡エンジニアリング」の主張

- ・主張1：文化の定義 文化は人間が自然や人間に働きかけて創造した全てのものを意味する。
- ・主張2：文化遺産は地域住民の教育や生涯学習、保存・修復・伝承事業、郷土の誇りや郷土愛の高揚、地元の威光の説明（観光産業）に有効に活用されるべき。
- ・主張3：地域発展。精神的にも物質的にも住民が豊かな生活を享受できるように、また次世代がより豊かな生活を享受できるように、地域資源の潜在可能性を顕在化していくべき。また、年配者は社会貢献のために自らの成長と自己実現に励み、次世代を担う「孫」にとって魅力ある祖父母になる社会的な使命があると考えるべき。



子供たちに伝統楽器に実演をする地域のシニア

遺跡エンジニアリングの基本概念



(遠藤宣雄氏プロフィール)

1938年11月生まれ

1999年6月～2002年5月

国際ボランティア・カルチャースペシャリストとしてカンボジア王国に滞在

